

## 障害者理解促進特設サイト「ハートシティ東京」について

### 1 概要

東京都では、平成26年度より、広く都民一般の障害者理解及び認識を深めるために障害者理解促進特設サイトとして、「ハートシティ東京」を構築し、運用している。<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tokyoheart/index.html>

ホームページの改修については、平成28年度に障害者差別解消法及び障害者虐待防止法のページを追加し、平成30年度に東京都障害者差別解消条例のページを追加している。今回は3回目の改修となる。

### 2 サイトの構成・内容

- |     |                                                                                                      |                                                                           |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| (1) |  東京都からのお知らせ ▶       | …庁内、区市町村からイベントのお知らせ等                                                      |
| (2) |  障害者差別解消法 ▶       | …法の概要、不当な差別的取扱い・合理的配慮の提供と具体例、東京都の取組、事業主による差別について（改正障害者雇用促進法）、東京都障害者差別解消条例 |
| (3) |  障害者虐待防止法 ▶       | …法の概要、障害者虐待の具体例、障害者虐待発見チェックリスト、東京都の取組                                     |
| (4) |  ヘルプマーク ▶         | } それぞれヘルプマークの外部サイト、ヘルプカードの都 HP へ                                          |
| (5) |  ヘルプカード ▶         |                                                                           |
| (6) |  障害者に関するシンボルマーク ▶ |                                                                           |
| (7) |  障害を知る ▶          | …視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害の障害特性、場面別のサポート方法              |
| (8) |  サポート方法 ▶         | …街の中で困ったこと、場面別のサポート方法 ※(7)同ページ                                            |

### 3 アクセスログによる分析（Google アナリティクス）

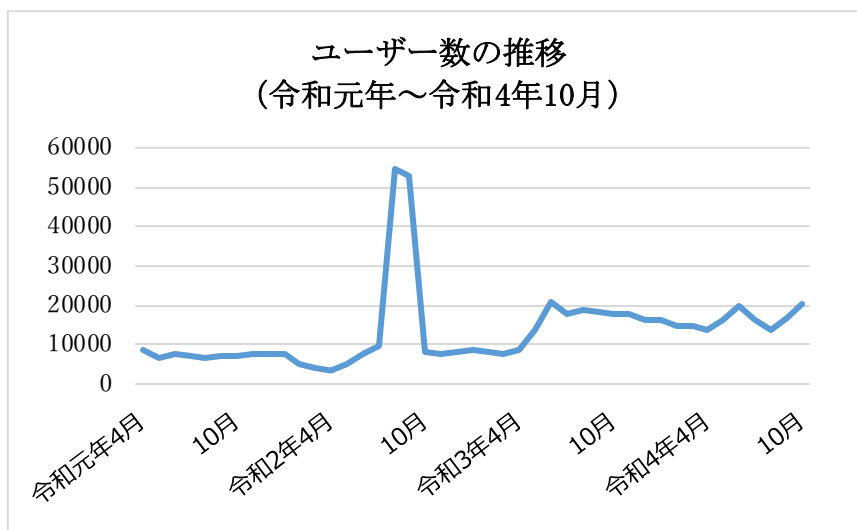
#### （1）概要

- Google が提供するアクセス解析ツールで、登録したサイトのユーザーの行動に関するデータ収集が可能。
- 特設サイト「ハートシティ東京」において、平成 31 年 3 月より当該ツールを導入している。

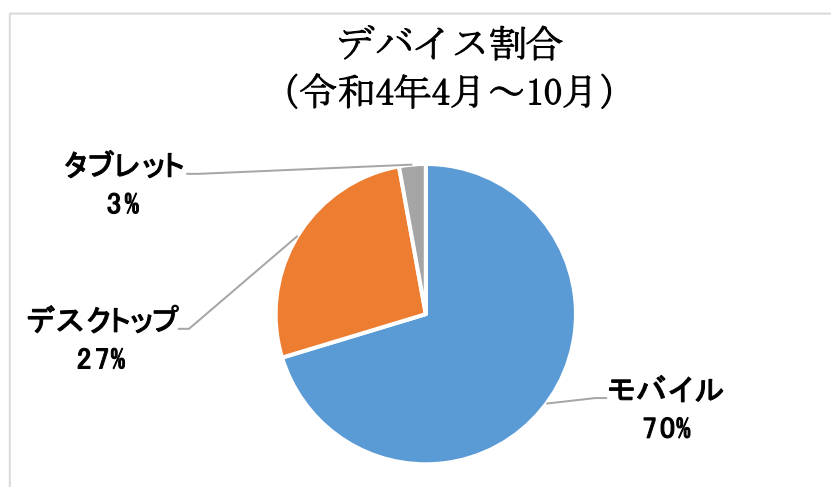
#### （2）主な結果

##### ○ アクセス数・ユーザー割合について

- 令和 4 年度の 1 か月あたりのアクセス数は、約 16,500 件。

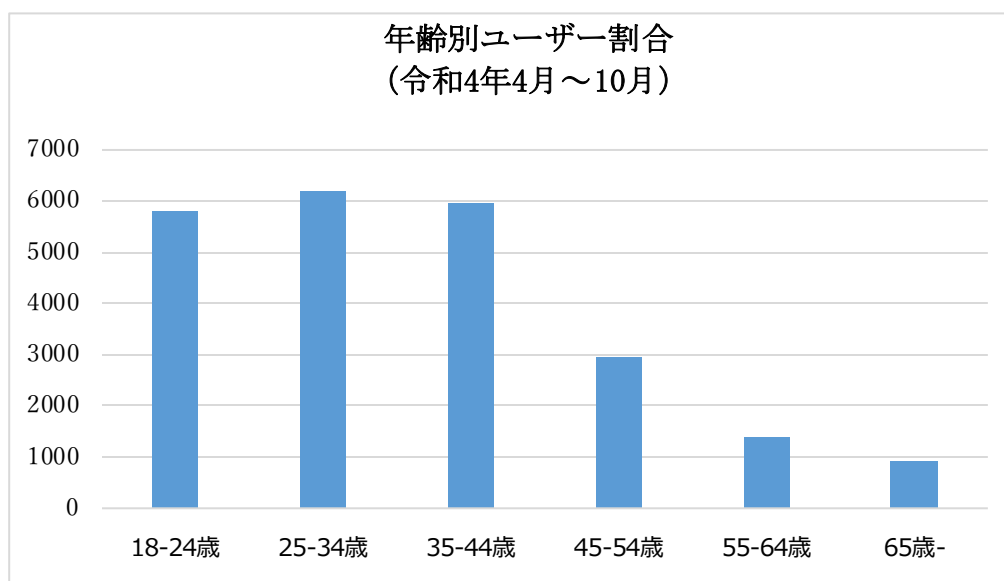


- デバイス別ユーザー割合では、モバイル使用者が最も多く（70%）、次いでデスクトップ使用者が多い（27%）。



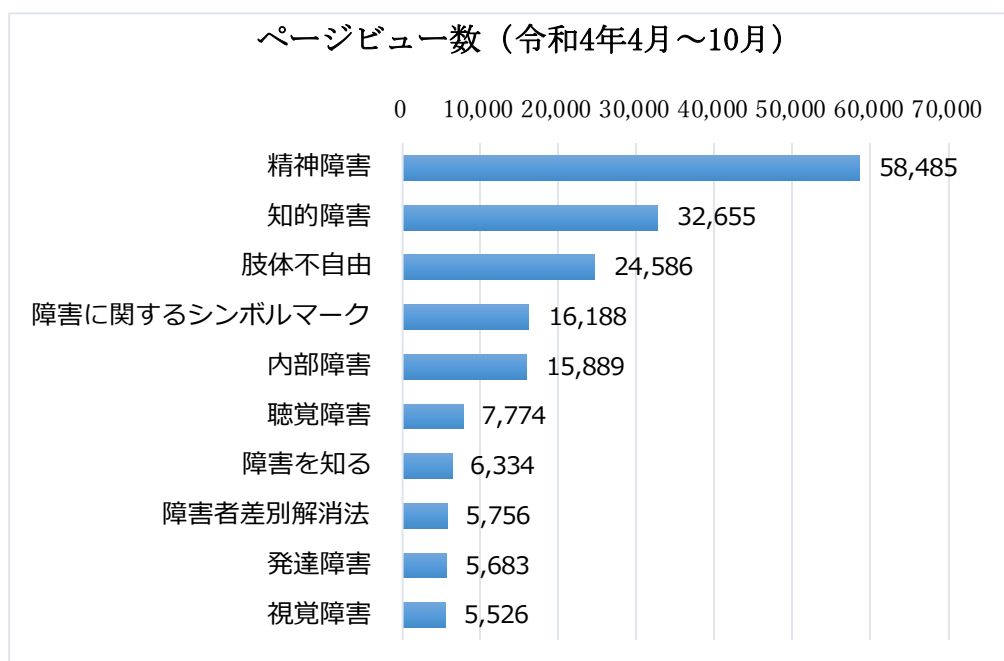
○ ユーザー属性について（測定可能数のみ）

年齢別ユーザー数は、20 代後半～30 代前半が最も多い。



○ ページビュー数

精神障害の閲覧履歴が最も多く、次いで、知的障害、肢体不自由が多い。



○直帰率（令和4年4月～10月）

平均 82.59%

※直帰とは、サイト内の1ページしか閲覧されなかったセッションをさす。

⇒ 閲覧されるコンテンツが偏っており、サイト回遊率が低い  
ため、サイト利活用のためにはユーザー目線でのコンテンツの配  
置や誘導を行う必要がある。